



街遊びの達人・坂崎重盛さんと、地球のあちこちで遊び回る吉田類さん。無類の酒好きでもあるお二人が酒場で語るとどうなるか？ こうなります。(東京・中野の酒場「路傍」にて)

いつつも遊んでます

編集部 本日はよろしくお願いたします。まずはちよつと、のどを潤されると……。

吉田 そうですね。ビールはちよつと飲んできましたけど。

坂崎 ちゃんと予習してきましたね。

吉田 してきました(笑)。ここは千福のお酒がおいしいんですよ。それでいきましょうよ、樽酒を升で。
編集部 吉田さんは先日、NHKの「クローズアップ現代」に登場されましたね。

吉田 BS-TBSの「酒場放浪記」をそのままNHKでやったという感じですね。北海道まで追いかけてきましたし、いきなり酒場放浪記のオープニングの音

楽から始まっちゃって、相当作り込んでいる感じがしました。しかも、僕が日本酒の注がれたお猪口をぐつと空けてカウンターに置くと、お猪口の底がアップになって「クローズアップ現代」と書いてあるんですよ。

坂崎 うまいね。僕、見なかったな。

吉田 NHKがああやって正面から酒場文化を捉えるというのは、いい意味で弾けていると思えましたね。

坂崎 今日持ってきたんだけど、『週刊朝日』の山藤章二さんの似顔絵塾に、類さんの似顔絵が出ていたよ。似顔絵塾に出るってことは、完全に国民的スターってことですよ。

吉田 ああ、そうなんですか。へー。ではとりあえず乾杯で。

坂崎 どうもどうも……うまい！

編集部 掲載は四月号でして、世はやる気みなぎる時期に、その腰を折るように道楽なんですけど……。

坂崎 ちよつと僕、最初に言っている？ 類さんが中公新書で出した本、なんだっけ？

吉田 『酒場詩人の流儀』です。

坂崎 あの本がいちばん類さんの本領が出ているというか、道楽的だよな。

吉田 あそこまで徹底して遊んで書いた本は初めて。ほかにはないです。

僕はお酒を飲んで坂崎さんと遊ぶのがもともと大好きなんだけど、物書きとしての僕をいちばん最初に認めてくれたのも坂崎さんですよ。

坂崎 僕なんかの遊びは完全に街だけなんですけど、類さんの場合は自然相手で……。

吉田 地球規模です。

坂崎 自然界も対象にしつつ、一方では街の路地横町をめぐり歩いている。

(酒の肴にうるめいわし登場)

吉田 僕はこれが大好きなんです。土佐うるめって、もつとこついやつがあると最高なんですけど、これも味はそんなに変わらないですよな。

店主 これも土佐のです。

吉田 そうでしょ、小さいやつね。

坂崎さんはどう転んでも、僕がナンバーワンと認める遊び人です。子供のころから……つてわけじゃないけど(笑)、若いころからずいぶん一緒に遊んでいて。昔、香港に一緒に行ったこともありますよな。

坂崎 もう三十年以上前ですね。